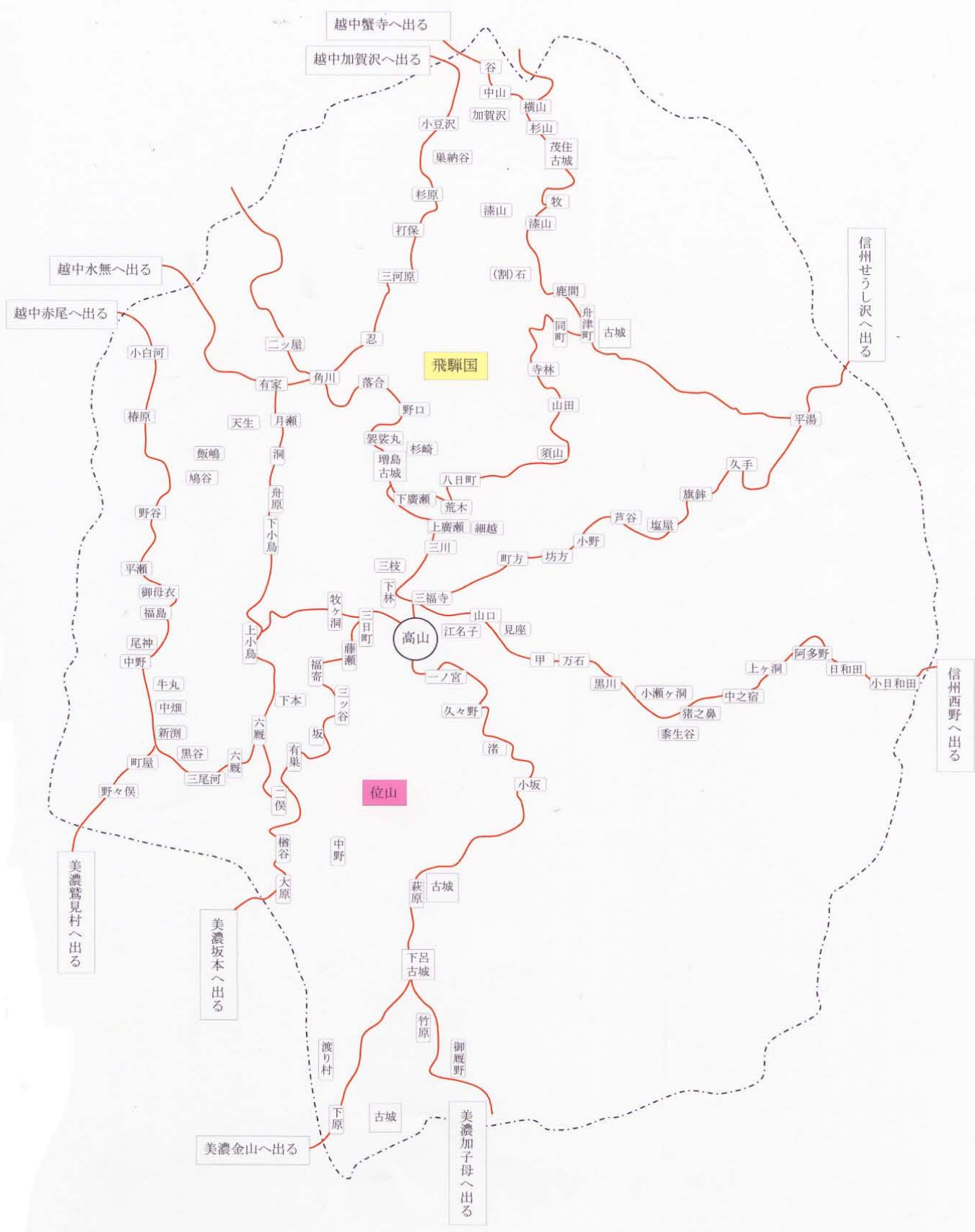


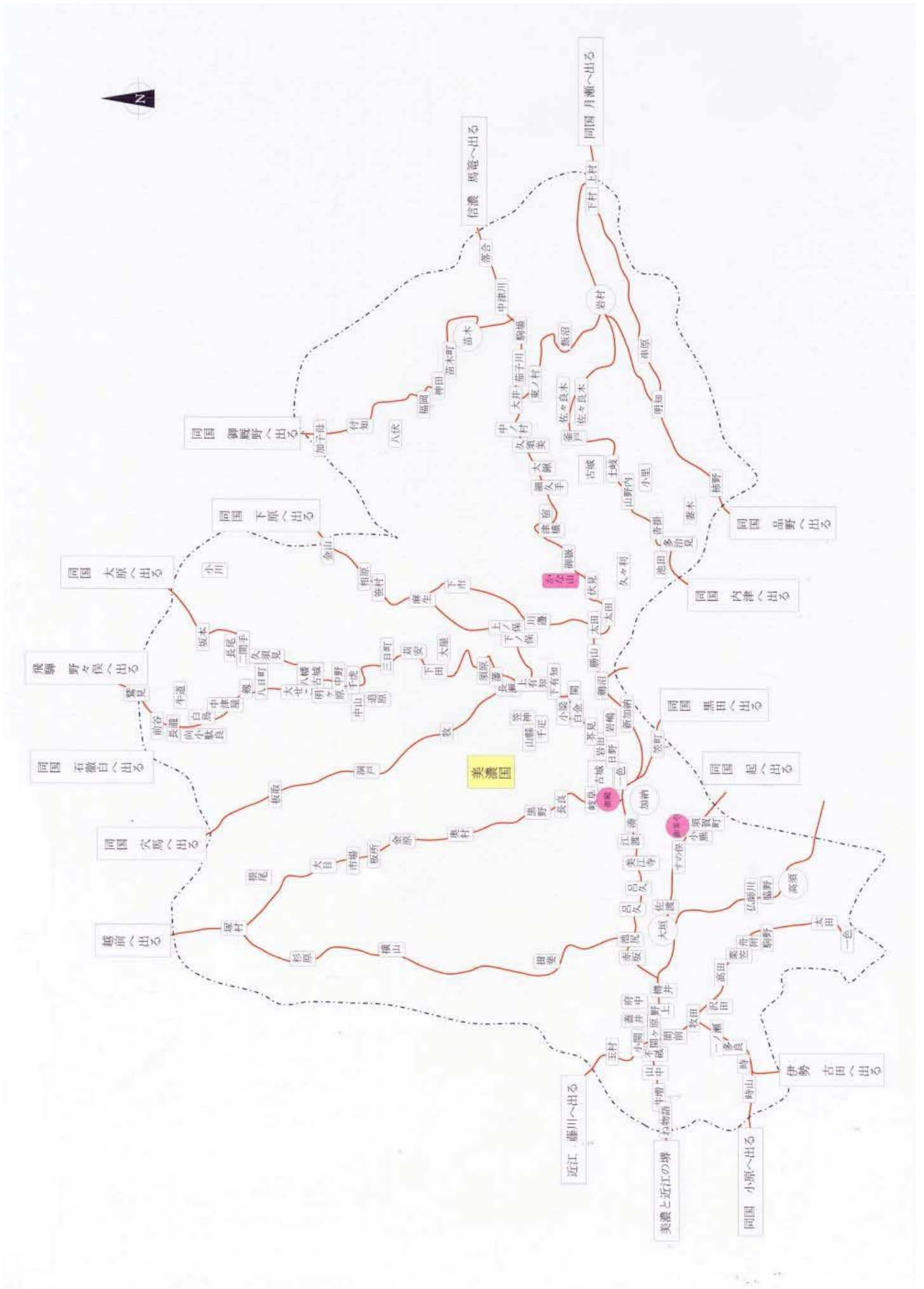
(第1図-1)



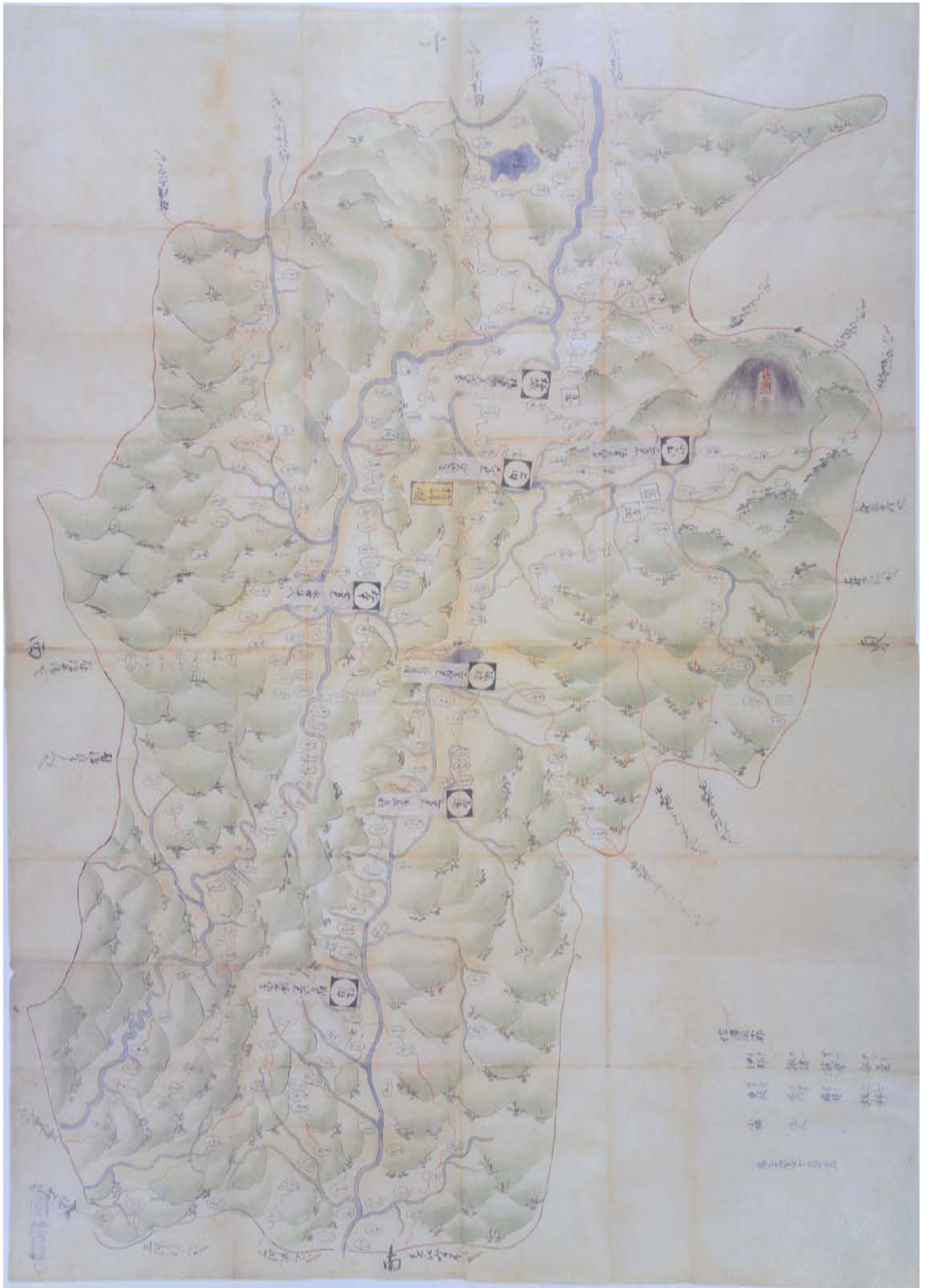
(第1図-2)



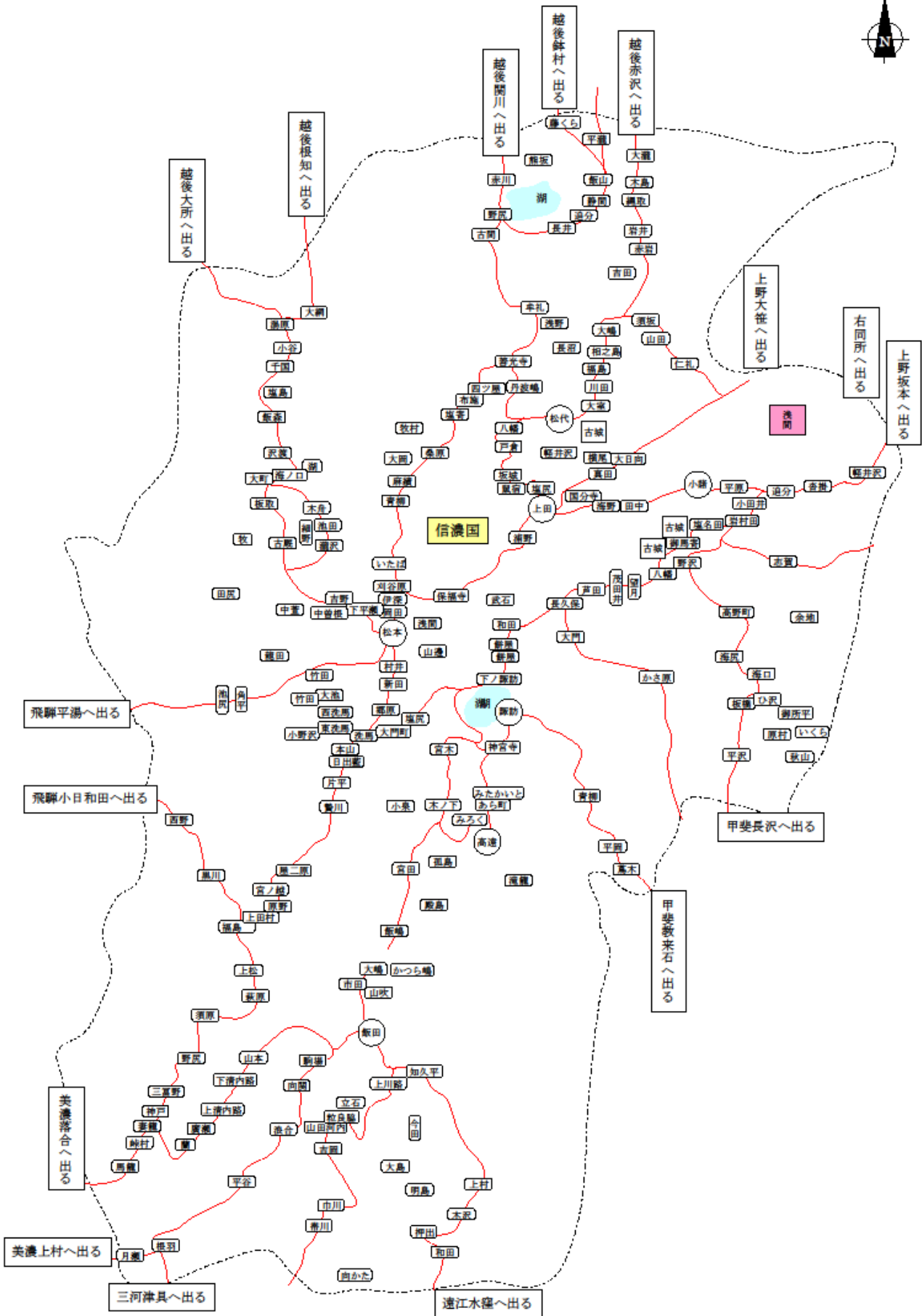
(第2図-1)



(第2図-2)



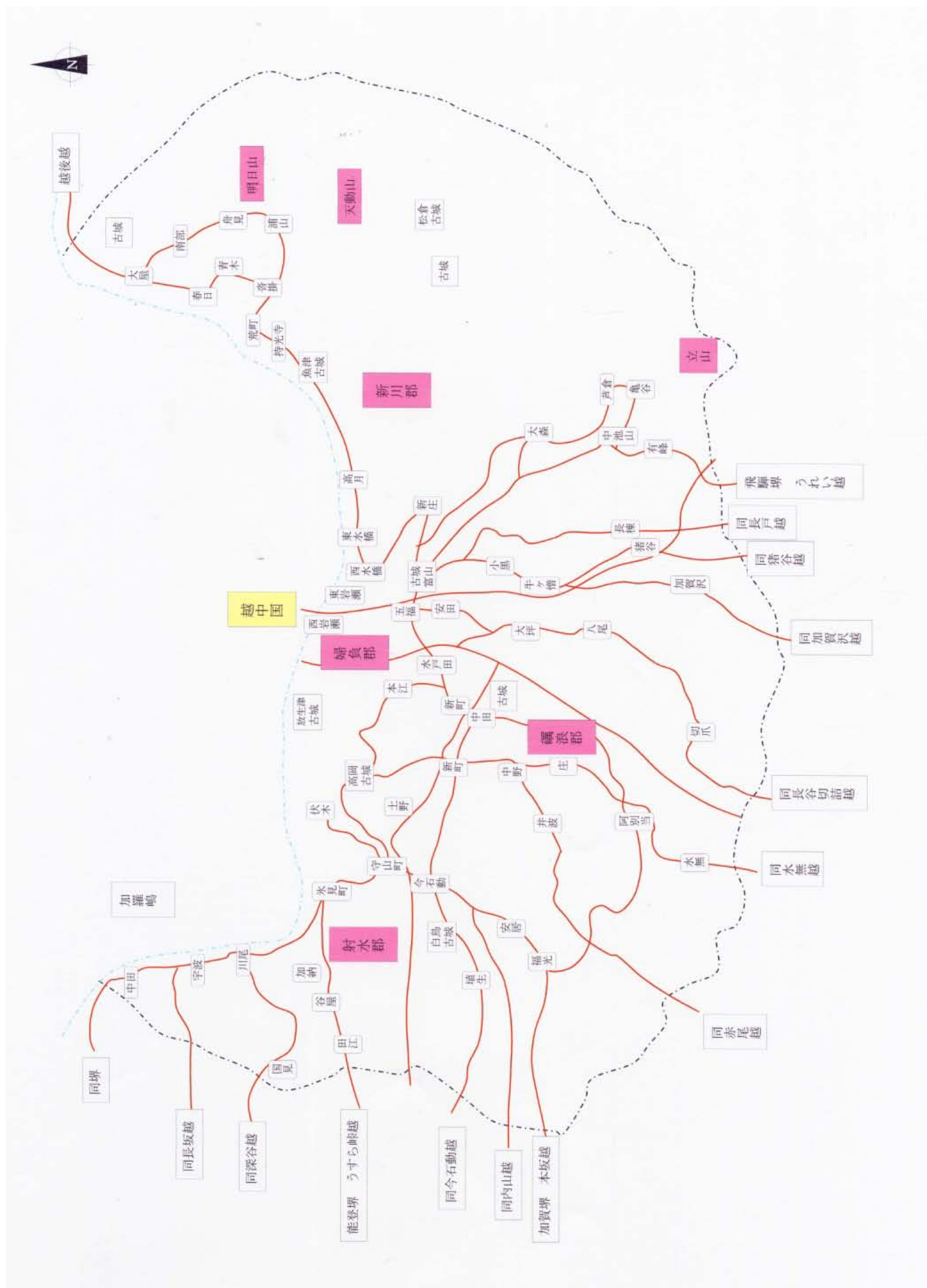
(第3图-1)



(第3図-2)



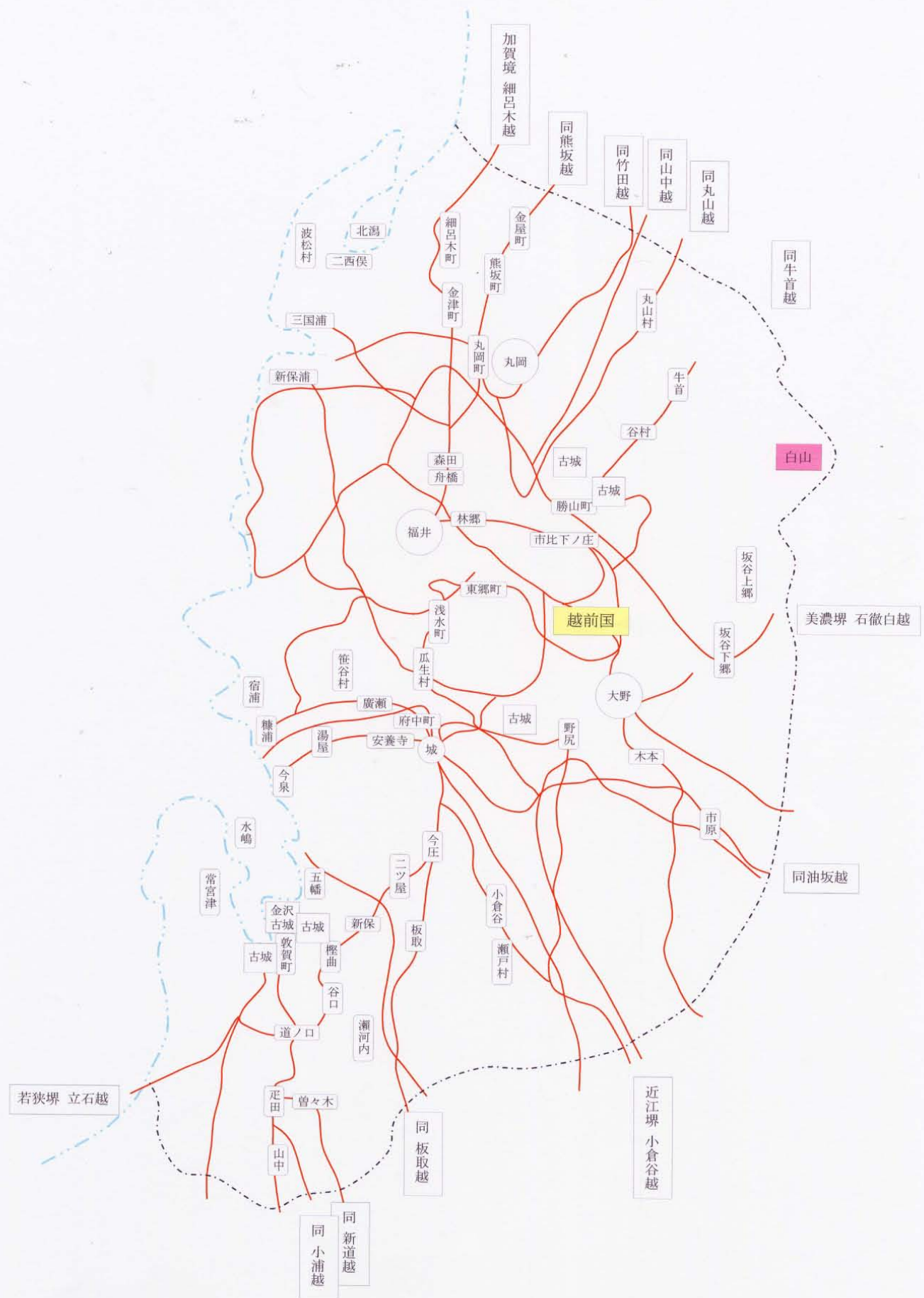
(第4图-1)



(第4図-2)



(第5图-1)



(第 5 図-2)

(4) 寛永十年巡見使国絵図 (第1～5図)

年代 寛永 10 年(1633)

原図の寸法 飛騨国図が 780×1100

刊本に所収されている印刷図寸法

第1図—1、2(2、3 頁)飛騨国図 37.9×52.3

第2図—1、2(4、5 頁)美濃国図 37×52

第3図—1、2(6、7 頁)信濃国図 37.7×52.2

第4図—1、2(8、9 頁)越中国図 37.8×51.9

第5図—1、2(10、11 頁)越前国図 37.4×52.2

刊本の所収 川村博忠編集『寛永十年巡見使国絵図日本六十余州図』柏書房株式会社

2002 年発行

所収刊本の所蔵 国立国会図書館(YP6H3)

第1～5図は、伝存があまり知られていなかった寛永 10 年(1633)の国絵図である。幕府巡見使が 3 人 1 組の 6 班で全国を分担巡察し、巡察の報告とともに国絵図を 3 代将軍家光に提出した原本の写しである。目的は諸大名の治政の監察、道筋と国境の見分、古城の見分(一国一城令に違反していないか)である。

寛永の国絵図は、江戸初期の全国 68 カ国を各国 1 枚ずつに仕立てた国絵図の一揃い、またはその一部が、いくつかの大家家文庫に伝存している。完全に近く揃っているのは秋田県公文書館、山口県文書館(毛利家文庫)などで、名古屋市蓬左文庫にも過半数がある。

江戸幕府が国家支配をする中で、もっとも重要な事業として全国の郷帳と国絵図の収納があった。

よく知られている国絵図としては慶長、正保、元禄、天保時代のものがある。正保期からは縮尺が定められ、全国統一様式での絵図となった。

第1図—1、第2図—1、第3図—1、第4図—1、第5図—1は刊本所収の各絵図である。第1図—2、第2図—2、第3図—2、第4図—2、第5図—2は、表示されている在所と、在所をつないでいるそれぞれの街道を抜き出し、街道と在所をわかりやすくした加筆図である。

・巡見使氏名は関東の分担区域(飛騨ほか 15 国)で、

正使 小出大隅守三尹(1 万石、7 千石役)

副使 永井監物白元(使番)

副使 桑山内匠貞利(書院番)である。

第1図—1の飛騨国図はあっさりとした絵図で、概要がつかみやすい。江戸街道は平湯から安房峠越えと、小日和田から長峰峠越えが記されている。古城の表記では、北から「茂住」「舟津」「増島古城」「萩原」「下呂」「下原」の 6 カ所がある。

第2～5図の周囲国絵図は、飛騨国からの街道接続に見るべきところがあり、交通の状況を知ることができる。

註1 刊本「川村博忠編『寛永十年巡見使国絵図日本六十余州図』2002年柏書房株式会社発行」中に掲載してある図は 美濃 22 頁、飛騨 23 頁、信濃 24 頁、越前 32 頁、越中 35 頁にある。

※掲載されている情報(文章、写真など)は、著作権法上認められた例外を除き、高山市教育委員会に無断で複製・引用・転用・転載などの利用をすることはできません。